



平成29年度 第2回学校評価結果について

第2回学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。96%の保護者の方にご回答いただき、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

△保護者アンケート結果一覧

	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来っていない	わからぬい
確かな学力	お子さんは、安心して、楽しく登校することができていますか。	51.5%	44.5%	3.3%	0.4%
	お子さんは、夢や目標をもって活動できていますか。	17.6%	57.4%	21.3%	1.9%
	お子さんは、学習したことを丁寧にノートに書いていますか。	18.0%	54.7%	20.1%	6.2%
	お子さんは、人の話をしっかり聞いて理解できていますか。	16.6%	60.2%	19.7%	3.1%
	お子さんは、学校で勉強している内容がよく分かっていますか。	18.6%	65.0%	12.6%	2.9%
	お子さんは、自分の思いや考えをすすんで話すことができますか。	17.2%	54.5%	22.2%	5.8%
	お子さんは、算数の授業に関心がありますか。	23.8%	50.9%	19.7%	4.8%
	お子さんは、難しいことでも失敗をおそれずに最後まで挑戦しようとしていますか。	11.8%	48.7%	30.0%	7.5%
	お子さんは、すすんで宿題に取り組めていますか。	24.8%	51.6%	17.1%	6.6%
	お子さんは、すすんで宿題以外の自主的な学習に取り組めていますか。	13.7%	32.9%	37.1%	16.1%
豊かな心	お子さんは、場に応じた気持ちのよいあいさつや返事ができますか。	16.8%	56.9%	21.7%	3.7%
	お子さんは、言葉づかいに気を付けていますか。	13.2%	58.5%	21.9%	5.2%
	学校活動や児童会活動、たてわり（フレンドリー）活動などを通じて、子どもの発達を生かした取組が進められていますか。	15.1%	64.0%	7.0%	1.9%
	お子さんは、友だちや周りの人と協力して課題を解決できますか。	16.3%	67.3%	8.6%	1.6%
健やかな体	お子さんは、人をいじめたり、なかまはずれにしたりしないように行動できますか。	39.8%	53.0%	1.7%	0.8%
	お子さんは、安全に気を付けて行動できますか。	26.7%	62.1%	9.7%	1.0%
	お子さんは、学校のきまりや社会のルールを守っていますか。	35.1%	59.1%	4.3%	1.2%
情報発信・小中一貫教育	学校だより、学級だより、学校ホームページ等を通じて、学校・担任からのメッセージや学校の様子がよく分かりますか。	25.8%	64.1%	7.2%	1.2%
	京都嵯峨学園の名称について、保護者の方や地域の方に知っていますか。	17.0%	56.3%	16.4%	1.9%
	京都嵯峨学園の教育活動について、情報提供ができますか。	10.7%	55.4%	23.4%	2.9%
	小中の連携した教育活動として取り組めていますか。	9.9%	50.8%	20.9%	2.7%
	15.7%	22.2%	5.3%	1.1%	

△児童アンケート結果一覧

	よくできている	だいたいでいい	あまりできていなか	できない
確かな学力	学校せいかつはたのしいですか。	70.0%	26.2%	3.0%
	学校でがくしゅうすることはたのしいですか。	59.3%	31.6%	7.6%
	ゆめやもくひょうをもってがくしゅうできていますか。	57.9%	33.3%	6.5%
	ノートにべんきょうしたことやかんがえたことをついにかいていますか。	48.8%	38.6%	10.7%
	先生やどもだらの話をしっかりきくことができていますか。	61.5%	33.7%	4.0%
	学校でのがくしゅうは、よくわかりますか。	62.9%	31.6%	4.2%
	じゅぎょううちゅうに、すすんで手をあげていますか。	41.6%	31.2%	21.9%
	グループ内でじぶんのかんがえをすすんではなしていますか。	53.5%	32.2%	11.8%
	算数のじかんはたのしいですか。	56.8%	28.8%	10.7%
	むずかしいことでも、がんばってちょうどせんしていますか。	61.5%	31.7%	6.1%
豊かな心	しゅくだけは、まい日わすれずにしていますか。	65.5%	25.5%	6.5%
	しゅくだけとはべつに、家ですすんでがくしゅうをしていますか。	52.3%	29.7%	12.5%
	学校や家で、じぶんからすすんできもちのよいあいさつや返事をしていますか。	55.3%	35.7%	6.7%
	どもだらや家の人がかなしくなるような、ひどいこぼづかいをしないようにきをつけていますか。	63.5%	30.2%	5.7%
	フレンドリーかつどうは、たのしいですか。	69.5%	21.3%	7.6%
健やかな体	みんなときょうりょくして、いろいろなことにとりくんでいますか。	64.6%	30.1%	4.2%
	人をいじめたり、なかまはずれにしたりしないようにきをつけていますか。	80.4%	17.3%	2.1%
	学校や家で、あんぜんにきをつけて行動していますか。	75.1%	20.5%	4.0%
おまかせ	学校や家の「きまり」をまもっていますか。	63.7%	31.0%	4.2%
	学校でくばられた手紙やプリントをきちんとお家の人にみせていますか。	71.3%	22.2%	5.3%

～記述欄より～ お子さんとの関わりの中で、お子さんが「成長した」「変わった」と思われるがあれば、お書きください。

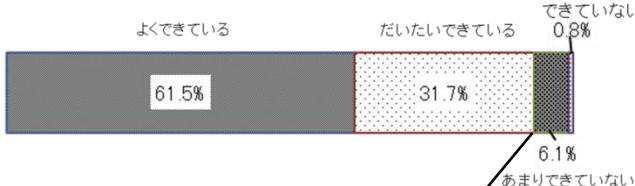
- ◇ 自主的に早起きして学習する習慣がつきました。時計を見て、これから行動を計画し、自主的に動くようになり、親としても感心することもあります。(1年)
- ◇ これまであまり発表することが得意でなく、自分の思いや考えを堂々と伝えることができていませんでした。しかし、お友だちの姿を見て、刺激を受け、友だちに声をかけてもらって少しずつ「やってみよう」という思いがこれまでより出てきたように感じます。まわりにいてくれる友だちの存在も子どもにとって本当に大切な感じます。(2年)
- ◇ 1、2年生の時などは、授業で挙手して意見を述べる場面があっても恥ずかしさからか、ほとんど挙手をしているところを見たことがありませんでした。3年生になってからは、挙手をしているところを多く見かけるようになりました。(3年)
- ◇ 自主勉強ノートが好きな勉強や苦手な勉強を自分で考えるきっかけになっていると感じました。先生が良いところをみつけてくれたり、今までしたことのない役割をさせてもらったりしたことで、子どもの自信となり積極的になっているなど感じました。(4年)
- ◇ 宿題を自分から進んでやるようになりました。夏休み前は、後回しにすることが多かったのですが、今は自分で計画してやっているので、「宿題は?」と心配することなくなりました。(5年)
- ◇ 登校班の班長をするようになってなのか、他の学校の活動の中で、リーダーをする機会があるからなのか、下の学年の子にやってはいけないことを注意することができるようになりました。他人にお父さんやお母さんことを言う時は、「父は」「母は」と使い分けて言えるようになりました。(6年)



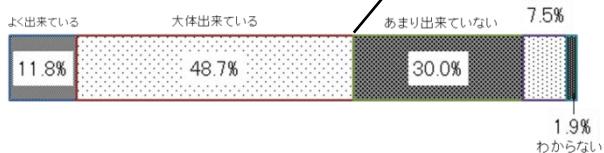
『確かな学力』の育成に向けて

★子どもが主体的に学ぶ楽しさやわかる喜びを味わうことができる取組を目指していきます。

◇難しいことでも、がんばって挑戦していますか。(児童)



◇難しいことでも、失敗をおそれずに最後まで挑戦していますか。【保護者】



慣が身に付いてきた表れであると思います。しかしながら、アンケート結果からは、保護者と児童の意識にはズレが見られます。「間違っていたらどうしよう。」「失敗したらどうしよう。」という不安からなのか、授業中に発表することに苦手意識をもっている児童が26%ほど見られることからも児童が安心して自分の思いや考えを伝え合うことのできる授業展開を工夫していくことに課題が残ります。

自主学習については、今年度より掃除後10分間のチャレンジタイムを設定して自分に合った問題集に取り組むようにしました。また放課後にも図書館を開館し、調べ学習に利用できるようにしました。しかし、アンケート結果からは、「あまり出来ていない」という感覚がまだまだあるようです。

次年度は、3年生以上に配付している冊子「ステップアップ学習のヒント」の活用方法についてもう少し学校からも家庭へ働きかけすることで有効活用してもらえるようにしていく必要があるように思います。また、児童に対してもやらされている感やマンネリ化を払拭していくようにしなければ、学ぶ楽しさやわかる喜びを味わうことのできる本当の意味での主体的な学びの実現には至らないと思います。引き続きご家庭と連携しながら、子どもたちの主体的な学びの習慣を身に付けていきたいです。

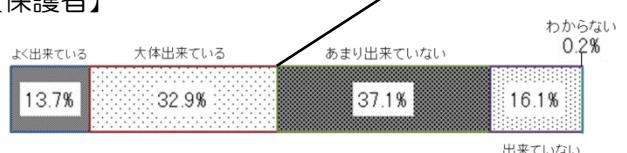
本校独自の学力向上プロジェクト（トライクプラン）や各種テストの結果分析を定期的に見直し、苦手克服や反復学習を行うなど取組を改善していくことで基礎基本の定着を図ってきました。また、今年度は昨年度の課題であった算数科の計算技能の向上をねらい、自作の問題で「計算技能検定」を実施しました。1月に実施したジョイントプログラムは、全学年京都市平均を上回る結果となりました。また、本校児童は、無回答が少ないことも特徴的です。あきらめずに何とかしようとする姿勢がうかがえます。これは、問題解決的な学習を通して、積み上げてきた既習の知識や技能を活用して解決する習

◇すすんで宿題以外の自主的な学習に取り組めていますか。

(児童)



【保護者】



『豊かな心』の育成に向けて

★自分も相手も気持ちのよい3つの「あ」を意識できる子を目指します。

嵯峨小学校では、3つの「あ」の徹底を呼びかけています。しかし、保護者アンケートの結果では、あいさつや言葉づかいにおいては、まだ課題が残るようです。今年度は、児童会本部の子どもたちが「あいさつ隊」志願者を募り、有志の子どもたちがあいさつ運動に参加するという取組を行いました。「ゼッケンを着たあいさつ隊員を見つけたらお互いにあいさつをし合う」というルールで、朝だけではなく1日中あいさつの声が飛び交っていました。このように、少しの工夫で自分からすすんであいさつをしようという雰囲気が広がりました。しかし、大切なのは「あいさつ強化週間」だけで終わってしまわないように、意識を持続させていくことだと思います。教室の前を通ると、廊下へ出てきて「先生、おはようございます。」と元気にあいさつをしてくれる子がいました。とてもうれしくて、いい気持ちになりました。



した。負けないように「○○さん、おはよう。」と返すと、嬉しそうに微笑んでくれました。お互いが気持ちよくなる体験を積み重ねることで、「いつでも、どこでも、誰にでも」が習慣化していくのではないですか。



『健やかな体』の育成に向けて



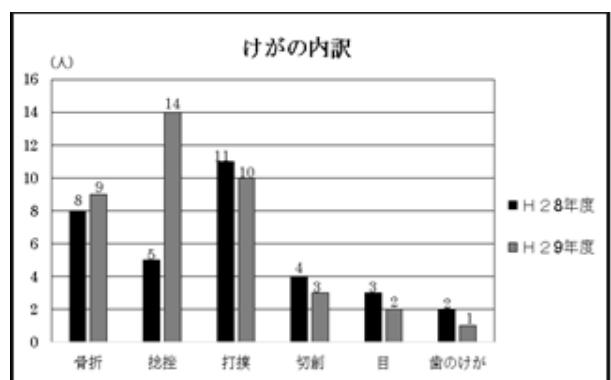
★危険を予測し、適切な判断と行動ができる子を目指します。

子どもたちの97.7%が「人をいじめたり、なかまはずれにしたりしないようにしている」、94.7%が「学校や家でのきまりを守っている」というアンケート結果からも規範意識の高さがうかがえます。実際に、本校では大きな問題行動が起こることなく1年を終えようとしています。

また、子どもたちの95.6%が「学校や家で、安全に気をつけて行動している」という結果から安全意識も高いと言えます。今年度最後の避難訓練は、中間休みに予告なしで実施しました。運動場や池のそば、渡り廊下など、教職員が近くにいて指示を出すことがなくとも子どもたちは安全に身を守る行動をとり、放送を聞いて所定の避難場所に集まることができました。しかし、その一方で休み時間や登下校時におけるけがの事案が目立ちました。ぬかるんでいるところを走っていて滑って転んだり、友だちとふざけていてけがをさせてしまったり、行動を起こす前に少し考えれば回避できたであろう事件が多かったように思います。

また、健康面においても同様なことが言えます。調子が悪くなっている保健室へ来る子どもたちの多くは、朝起きた時から不調であったのに無理をしていましたというケースです。インフルエンザが流行している時期には、朝から咳が出ているのにマスクを着用してきていないということも気になります。

このように、子どもたちの安全意識に適切な判断力と行動力が伴うように、「自分の体の主人公は自分であること」「自分も相手も大切であること」を大人が示してやる必要があるのではないでしょうか。



(学校保健委員会資料より)



情報発信の充実に向けて

★受け手の「知りたい」を伝え、送り手の「伝えたい」を知らせる情報発信を目指します。

今年度も週末の予定表と月末の学校だよりの中で、子どもたちの活動の様子を伝えてきました。さらに、ホットタイムリーな話題については、各学年をはじめ研究や図書館、給食室などの部で分担し、随時ホームページに掲載するように心がけてきたことで、毎日ホームページを更新することが実現しました。10月の時点では、1日平均アクセス数が97.6件でしたが、現在は99.3件と100件に迫る勢いで閲覧者が増えてきて

ランチルーム

今日の給食は、ごはん・牛乳・ハッシュドビーフ・小松菜のソテでした。ランチルームでは、2年3組が教員先生と一緒に楽しく給食を食べました。ミニ育児指導では、赤・黄・みどりの食べ物グループの話をしました。食べ物には、それぞれ働きがあり、元気な体を作くつていくためには何でも食べることが大切だと語りました。(「残さずがんばって食べよう!」)と決意する子がたくさんいました。

2年3組では、牛乳がパクに残っていないか、チェックをしてくれている子がいます。食べ物や飲み物を最後まで食べたり、飲みきりすることは、食べ物や作っている方への「感謝」にも繋がります。

今日の給食もおいしくいただきました。

【給食室より】 2018-02-23 16:07 up!

図書館大盛りわい!

昨日はたくさんのお子さんが図書館で読み物を読みました。最近では、自分が立ち込んで調べたいことを決め、黙々とステップアップノートに取り組んでいます。

3分ぐらいの時間ですが、6ページも書いた!という子どももいます。1年勉強始めたときにがっかりと困っていました。

【図書室より】 2018-02-21 19:49 up!

いることがうかがえます。SNSが普及している現代にとって、ホームページは有効な情報発信ツールであるといえます。特に、修学旅行や野外活動においては現地での活動の様子を可能な限りリアルタイムでアップするようにしました。4年生の野外活動みさきの家の際には、1日アクセス933件という今年度最多記録を樹立しました。このことからも、受け手が何を知りたがっているのかを送り手側は考えて発信することに、情報発信の意義があるということがうかがえます。

その一方で、保護者の12%が「学級活動や児童会活動、フレンドリー活動などを通じて、子どもの発想を生かした取組が進められていますか」という質問に対して、「わからない」と回答されていることが目にとまりました。児童会の発想としては、イベント・スポーツ委員会のギネス嵯峨記録、放送委員会のミニライブ、ミュージック委員会の全校合唱やのどじまん大会、池・フラワー委員会の花の絵コンテストなど楽しい企画があります。また、図書委員会の図書貸し出し当番やグルメ委員会の給食室立當番など、常時活動をしている委

員会もあります。また、フレンドリー活動は、縦割グループでの関わり合いを通して互いを大切に思う心を育んだり、ミラクルチャレンジや大なわ大会では協力して挑戦する経験を積んだりすることができる有意義な活動です。送り手が伝えたい「子ども力」(子どもたち同士の関わり合いの中で学び合う力、子どもが子どもを育てる力)を育てる取組についても受け手側に分かりやすく届くよう発信することも心がけていきたいと思います。



小中一貫教育の充実について



★児童と生徒のかかわり合いが光る京都嵯峨学園の取組の実現を目指します。

今回の保護者アンケートには、京都嵯峨学園に関する質問項目もありました。昨年度は、小中の教員が互いの授業参観や合同研修により、**教職員同士の連携**を深めることに力を入れてきました。今年度は、子どもたち**同士の連携**を少しでも深めていけるように、児童会と生徒会、英語活動と英語科など、教科や部会単位で小中の主任が集まって話し合う機会を設定しました。これまでには、3校合同子どもすもう大会、嵯峨中パレード、中学校授業体験という一部の子どもたちだけの関わりというイメージがもたれていましたが、ここ数年は生き方探究チャレンジ体験で本校出身の中学生が4日間の職場体験に来て各学年の子どもたちとふれあったり、**陸上部が中学生と合同練習**をしたり、3小学校育成学級合同のお別れ会に中学校の育成学級の生徒が参加したりするなど小中連携の取組の幅は着実に広がっています。

また、今年度からは、嵯峨中学校が自分のるべき行動を習慣化させるための自己管理ツールとして活用している「エスノート」を6年生に導入しました。子どもたちには週予定表を配付せず、時間割に宿題、放課後や休日のスケジュールを自分でエスノートに書き込むようにしてきました。

1年間継続することで、自分の予定を管理したり、見通しをもって行動したりする力が少しずつ備わり、中1ギャップの解消へつながるのではないかと思います。しかし、保護者アンケートの結果を見ると、京都嵯峨学園という名称については浸透してきているように思われますが、「教育活動についての情報提供」においては26.3%が、「小中の連携した教育活動として取り組めているか」については、23.6%が十分ではないという認識をもたれており、「わからない」という回答も目立ちます。今年度より始めた「京都嵯峨学園だより」の内容を充実させ、小中連携のメリットを発信すること、児童と生徒の関わり合いが生きる取組を推進していくことで、地域や保護者への説明責任を果たしていきたいと考えています。

今年度提示した「嵯峨小学校の教育」を見直し、よりよい学校教育を目指して取り組んでいきます。しかし、これは地域および保護者の方々の協力なしに進めることはできません。児童のよりよい成長に携わる立場として、ぜひ来年度以降も本校教育にご支援いただきますよう、お願ひいたします。

3月9日（金）に学校運営協議会を開催し、平成29年度第2回学校評価結果についての学校関係者評価をいただきました。今回のご意見をもとに本校の取組を点検し、次年度の学校運営に生かしていきたいと考えています。

学習指導

字が丁寧に書けており、一人一人工夫されたノート作りができるようになってきているのは、教師の日々の細やかな指導の表れである。しかし、文章表現については、指導を入れすぎると子どもたち本来の言葉でなくなってしまうことがあるため、指導と助言の使い分けを意識していくことが望ましい。

3つの「あ」

集団登校時に、相手の顔を見て頭を下げてあいさつをする子が増えてきた。授業や地域行事においても真面目に主体的に取り組む姿が印象的で、発表する友だちを応援したり、手伝ったりするなどあたたかい雰囲気が感じられる。しかし、トイレのスリッパやペーパーが乱れていたり、使った道具が放置されていたりすることが見られるため、あとかたづけの意識づけを継続していくことが望ましい。

安全な行動

子どもたちが地域でもルールをきちんと守れている一方で、信号機のない道路を親が渡ろうとしているのを子どもが制止したり、青信号が点滅して子どもが止まろうとしているのに、親が速く渡るようにせかしたりする様子が見受けられる。大人が模範的な行動を示すことで、子どもの安全意識を育んでいくことが望ましい。

